

2009年の夏（6月～8月）のまとめ

2009年9月1日
札幌管区气象台
気候・調査課

1. 今夏の概要

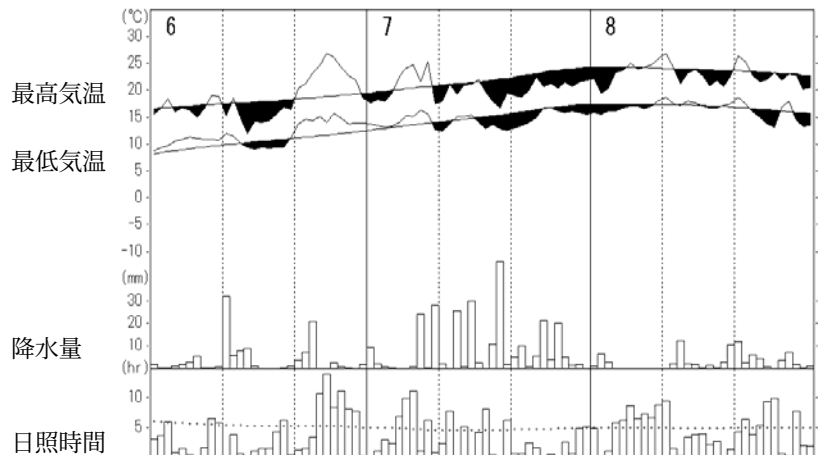
「並温・多雨・寡照」

曇りや雨が多かった夏

気温は平年並となったが、6月下旬の高温や7月後半の低温など寒暖の差が大きかった。

降水量は6月と7月に平年より多くなり、特に7月は1946年以降で最も多くなった。

日照時間は平年より少なく、特に6月と7月は平年よりかなり少なくなった。



第1図 2009年の夏(6～8月)の日々の気象経過（北海道22地点平均）

2. 今夏の気象経過

(1) 気温

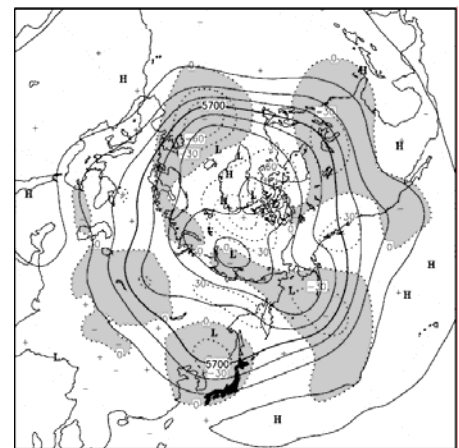
期間の前半は、6月中旬に気圧の谷の影響で低温となった他は、南から暖かい空気が入り、平年並か平年より高かった。特に6月下旬は各地で真夏日を記録するなど、旬平均気温は1951年以降で最も高くなった。期間の後半は、気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で平年並か平年より低く経過した。特に7月下旬は、気圧の谷や寒気の影響で平年よりかなり低くなった。

(2) 降水量

低気圧や気圧の谷の影響で、6月中旬から7月にかけて平年より多くなった。特に7月は、低気圧が発達しながら次々に通過したため、1946年以降で最も多くなった。

(3) 日照時間

気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響で、6月と7月は平年よりかなり少なく、8月は平年より少なかった。特に、6月中旬と7月下旬の旬間日照時間は1951年以降で最も少なくなった。



第2図a 夏平均の500hPa天気図

実線は等高線(m)、点線は高度の平年差で陰影域は平年より高度が低い負偏差の領域(負偏差の領域は気温が平年より低い傾向がある。風は等高線に沿って西から東に吹いており(偏西風)、等高線が南北に波うっている所では偏西風が大きく蛇行していることを示す。また、等高線の間隔が狭い所ほど偏西風が強く吹いており、地上の高・低気圧の動きが早いことを示す。

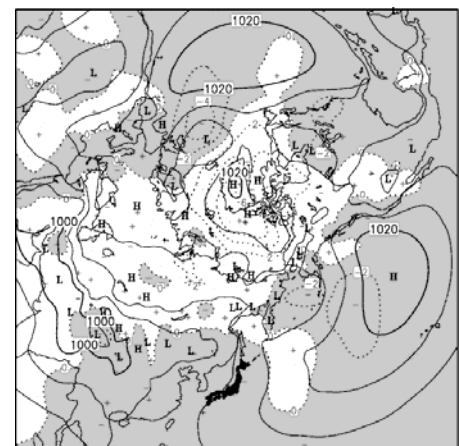
3. 大気の流れの特徴

500hPa 天気図：

北海道付近は沿海州の気圧の谷に伴う負偏差域に入り、湿った気流が入りやすかった。一方、東シベリアは気圧の尾根に伴う正偏差域となり、ブロッキング高気圧が顕在化した時期があった。

地上天気図：

北海道付近は負偏差域となり、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。一方、オホーツク海は高圧部となり、北海道は冷たい気流の影響を受ける時期もあった。



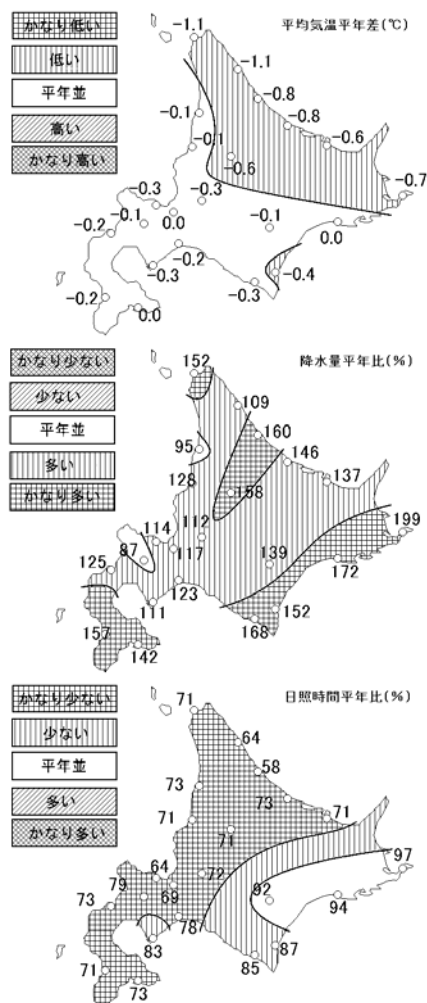
第2図b 夏平均の地上天気図

実線：等圧線(hPa)、点線：気圧の平年差。陰影域は平年より気圧が低いことを示す。

問い合わせ先：札幌管区气象台気候・調査課統計係
電話：011(611)6149

第1表 全道22気象官署の夏平均の平均気温、降水量、日照時間と平年差（比）

官署名	今夏			平年偏差・平年比（階級）		
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %
稚内	15.2	382.5	338.1	-1.1 (-)	152 (++)	71 (--)
北見枝幸	14.6	330.0	267.5	-1.1 (-)	109 (+)	64 (--)
羽幌	18.2	291.0	397.0	-0.1 (0)	95 (0)	73 (--)
雄武	14.7	442.0	257.5	-0.8 (-)	160 (++)	58 (--)
留萌	18.2	353.5	381.6	-0.1 (0)	128 (+)	71 (--)
旭川	18.8	473.0	373.1	-0.6 (-)	158 (++)	71 (--)
網走	15.9	323.0	367.3	-0.6 (-)	137 (+)	71 (--)
小樽	18.7	267.0	342.7	-0.3 (0)	114 (+)	64 (--)
札幌	19.6	300.5	372.0	0.0 (0)	117 (+)	69 (--)
岩見沢	18.6	332.0	374.7	-0.3 (0)	112 (+)	72 (--)
帯広	17.5	445.0	370.0	-0.1 (0)	139 (+)	92 (0)
釧路	14.9	594.0	353.6	0.0 (0)	172 (++)	94 (0)
根室	13.4	620.5	374.4	-0.7 (-)	199 (++)	97 (0)
寿都	18.0	336.5	376.0	-0.2 (0)	125 (+)	73 (--)
室蘭	17.2	515.0	368.3	-0.3 (0)	111 (+)	83 (-)
苫小牧	16.9	578.0	275.3	-0.2 (0)	123 (+)	78 (--)
浦河	16.4	655.0	353.5	-0.3 (0)	168 (++)	85 (-)
江差	19.2	541.5	344.2	-0.2 (0)	157 (++)	71 (--)
函館	18.9	495.0	348.2	0.0 (0)	142 (++)	73 (--)
倶知安	18.2	245.0	378.4	-0.1 (0)	87 (0)	79 (--)
紋別	15.3	403.0	340.6	-0.8 (-)	146 (+)	73 (--)
広尾	15.1	836.5	315.9	-0.4 (-)	152 (++)	87 (-)
北海道22地点平均				-0.4 (0)	137 (++)	76 (--)
太平洋側8地点平均				-0.2 (0)	151 (++)	86 (-)
ホツツ海側4地点平均				-0.8 (-)	138 (++)	67 (--)
日本海側10地点平均				-0.3 (0)	125 (+)	71 (--)



第3図 夏平均(6～8月)の平年差(比)の分布図

注) 括弧付きの値は欠測を含むことを示す。

階級は、++、+：は高い・多い(++はかなり高い・多い)、0：平年並、--、-：は低い・少ない(--はかなり低い・少ない)

第2表 月別、旬別の全道および地域平均の平均気温、降水量、日照時間と平年差（比）と階級
(か→かなり、並→平年並 をそれぞれ示す。)

北海道全域

	6月上旬	6月中旬	6月下旬	6月	7月上旬	7月中旬	7月下旬	7月	8月上旬	8月中旬	8月下旬	8月
気温	+0.4 並	-1.5 低	+3.2 か高	+0.7 高	+0.7 並	-1.3 低	-2.4 か低	-1.0 低	-1.1 並	-0.7 低	-0.6 並	-0.8 並
降水	48 少	203 か多	157 多	132 多	207 か多	361 か多	234 多	256 か多	29 少	70 少	67 少	56 少
日照	53 少	37 か少	128 多	72 か少	89 並	79 少	38 か少	68 か少	108 並	59 少	96 並	88 少

太平洋側

	6月上旬	6月中旬	6月下旬	6月	7月上旬	7月中旬	7月下旬	7月	8月上旬	8月中旬	8月下旬	8月
気温	+0.4 並	-1.9 低	+2.9 か高	+0.5 並	+1.0 高	-0.3 並	-1.9 低	-0.4 低	-1.2 低	-0.8 並	-0.4 並	-0.8 低
降水	44 少	208 か多	176 多	136 多	191 か多	334 か多	349 か多	277 か多	44 少	99 並	57 少	66 少
日照	61 少	22 か少	161 か多	80 少	113 多	125 並	39 か少	90 少	84 並	63 少	117 多	90 少

ホツツ海側

	6月上旬	6月中旬	6月下旬	6月	7月上旬	7月中旬	7月下旬	7月	8月上旬	8月中旬	8月下旬	8月
気温	-0.7 並	-1.6 低	+4.0 か高	+0.6 高	+1.0 並	-2.2 低	-4.4 か低	-2.0 低	-2.1 低	-1.4 低	+0.2 並	-1.1 低
降水	50 少	193 多	167 多	138 多	203 多	371 か多	239 か多	266 か多	22 少	69 並	43 少	44 少
日照	63 少	34 か少	107 並	68 か少	93 並	43 か少	32 か少	56 か少	120 多	37 か少	74 少	75 少

日本海側

	6月上旬	6月中旬	6月下旬	6月	7月上旬	7月中旬	7月下旬	7月	8月上旬	8月中旬	8月下旬	8月
気温	+0.8 並	-1.2 低	+3.2 か高	+0.9 高	+0.4 並	-1.7 低	-2.0 低	-1.1 低	-0.7 並	-0.2 並	-1.2 低	-0.7 並
降水	51 少	203 多	139 多	127 多	220 か多	377 か多	140 多	235 か高	19 少	48 少	82 並	53 少
日照	44 か少	50 少	109 多	68 か少	69 少	57 少	41 か少	55 か少	122 多	65 少	86 少	91 少

4. 月毎の気象

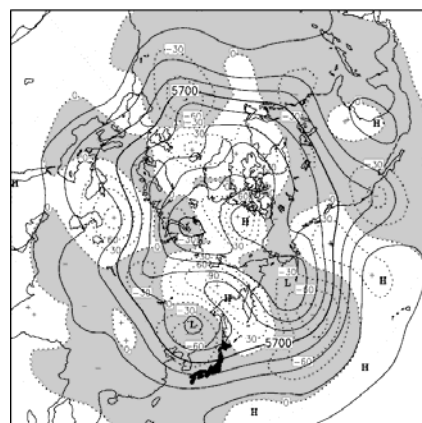
(1) 6月『高温・多雨・寡照』

気圧の谷により上旬・中旬に天気ぐずつく

500hPa 天気図：オホーツク海でブロッキング高気圧が顕在化したため、中国東北区に気圧の谷が停滞し、北海道はこの影響を受けた。

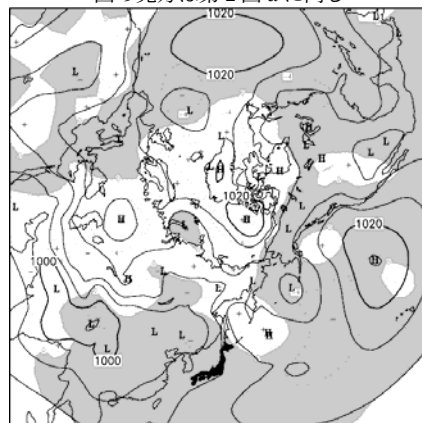
地上天気図：オホーツク海で高気圧が顕在化した。北海道付近は負偏差となり、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。

気象経過：この期間の天気は、上旬と中旬は気圧の谷の影響でぐずつく日が多かったが、下旬は晴れて気温の高い日が多かった。気温は、中旬は低く、下旬はかなり高く、月平均気温は高かった。降水量は、上旬は少なく、中旬はかなり多く、下旬は多く、月降水量は多かった。日照時間は、上旬は少なく、中旬はかなり少なく、下旬は多く、月間日照時間はかなり少なかった。



第4図a 6月の500hPa天気図

図の見方は第2図aに同じ



第4図b 6月の地上天気図

図の見方は第2図bに同じ

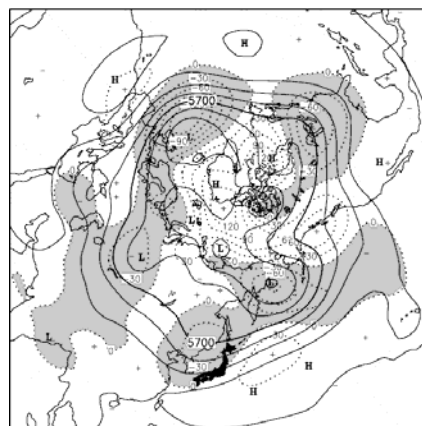
(2) 7月『低温・多雨・寡照』

発達した低気圧が次々通り、記録的多雨

500hPa 天気図：北海道付近は沿海州の気圧の谷に伴う負偏差域に入った。北海道付近には、南から湿った空気が入りやすかった。

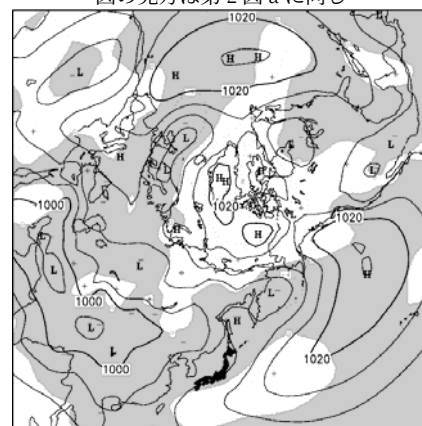
地上天気図：北海道付近は気圧の谷の中で強い負偏差となった。これは、北海道付近を低気圧が発達しながら次々に通ったことに対応している。

気象経過：この期間の天気は、上旬は晴れて気温の高い日もあったが、中旬と下旬は低気圧や気圧の谷の影響でぐずつく日が多かった。月降水量の平年比（北海道22地点平均）は256%で、1946年以降で最も多かった。気温は、中旬は低く、下旬はかなり低く、月平均気温は低かった。降水量は、上旬と中旬はかなり多く、下旬は多く、月降水量は多かった。日照時間は、中旬は少なく、下旬はかなり少なく、月間日照時間はかなり少なかった。



第5図a 7月の500hPa天気図

図の見方は第2図aに同じ



第5図b 7月の地上天気図

図の見方は第2図bに同じ

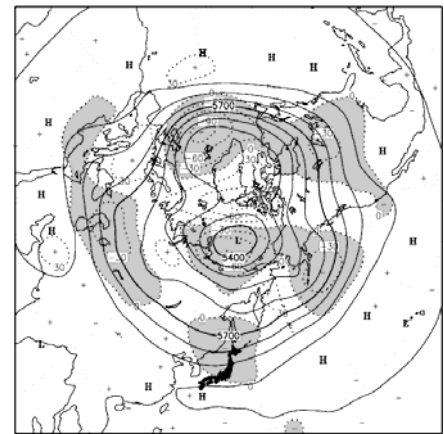
(3) 8月『並温・少雨・寡照』

気圧の谷の影響で日照少なめ

500hPa 天気図：北海道付近は負偏差域に入り、気圧の谷や寒気の影響を受けやすかった。

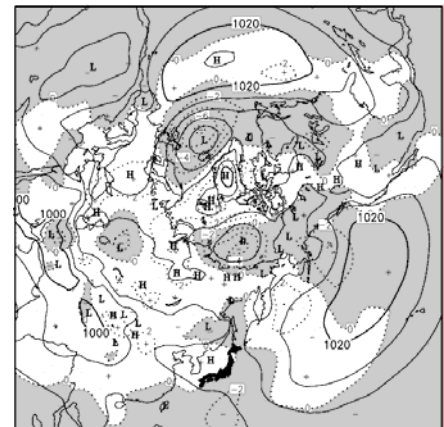
地上天気図：北海道付近は概ね負偏差域となり、気圧の谷の影響を受けやすかった。また、千島近海は高圧部となり、北海道付近は冷たい気流の影響を受ける時期があった。

気象経過：この期間の天気は、上旬から中旬の初めにかけてと下旬の初めは、高気圧に覆われ晴れた日が多く真夏日となった所もあった。その他は、気圧の谷やオホーツク海高気圧の影響でぐずつく日が多かった。気温は、中旬は低く、月平均気温は平年並だった。降水量は、全ての旬で少なく、月降水量は少なかった。日照時間は、中旬は少なく、月間日照時間は少なかった。



第6図a 8月の500hPa天気図

図の見方は第2図aに同じ



第6図b 8月の地上天気図

図の見方は第2図bに同じ

5. 今夏の特徴と記録

(1) 今夏に観測された統計開始以来3位までの記録

第3表 今夏に観測された統計開始以来3位までの記録（夏の各月）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの記録(年)	統計開始年
6月	月降水量（多い）	1	稚内	161.5 mm	278 %	145.4 (1957)	1938
	月間日照時間（少ない）	3	雄武	81.8 h	55 %	47.3 (1993)	1942
	月降水量（多い）	1	雄武	270.0 mm	314 %	210.5 (1955)	1942
7月	月降水量（多い）		網走	209.5 mm	269 %	190.4 (1947)	1890
			釧路	278.5 mm	241 %	247.0 (1913)	1910
			根室	336.5 mm	334 %	233.0 (1936)	1879
			苫小牧	371.0 mm	255 %	314.0 (1987)	1942
			江差	380.5 mm	322 %	309.0 (1987)	1941
			紋別	248.0 mm	279 %	184.5 (1992)	1956
		2	室蘭	349.0 mm	247 %	369.9 (1936)	1923
			函館	334.0 mm	314 %	339.1 (1878)	1873
			広尾	415.0 mm	270 %	433.0 (1999)	1958
		3	旭川	305.0 mm	308 %	383.5 (1953)	1888
			小樽	150.5 mm	232 %	242.6 (1961)	1943
			浦河	377.5 mm	298 %	400.2 (1927)	1927
	月間日照時間（少ない）	1	寿都	86.4 h	51 %	89.0 (1931)	1901
		2	羽幌	100.0 h	57 %	99.3 (1932)	1921
			小樽	77.7 h	45 %	71.6 (1975)	1943
			札幌	82.6 h	47 %	82.1 (1975)	1890
		3	稚内	87.1 h	58 %	55.8 (1956)	1938
			網走	99.4 h	57 %	89.2 (1913)	1904
		2	岩見沢	37.0 mm	24 %	28.5 (1984)	1947
	8月	2	岩見沢	37.0 mm	24 %	28.5 (1984)	1947
6-8月	3か月間の降水量（多い）	1	根室	620.5 mm	199 %	591.6 (1919)	1880
		2	釧路	594.0 mm	172 %	691.3 (1920)	1910
	3か月間の日照時間（少ない）	1	札幌	372.0 h	69 %	378.9 (1964)	1890
			岩見沢	374.7 h	72 %	380.5 (1992)	1947
			江差	344.2 h	71 %	349.5 (1945)	1941
		2	北見枝幸	267.5 h	64 %	173.1 (1956)	1943
			羽幌	397.0 h	73 %	378.6 (1969)	1921
			雄武	257.5 h	58 %	200.4 (1956)	1942
			留萌	381.6 h	71 %	369.9 (1964)	1943
			小樽	342.7 h	64 %	327.2 (1956)	1943
		3	網走	367.3 h	71 %	344.3 (1962)	1904

(2) 夏日・真夏日の日数

夏日（日最高気温が 25℃以上の日）の日数は、6 月は平年と同じか上回ったが、7 月と 8 月は平年を下回った所が多く、夏の合計は全ての地点で平年を下回った。また、昨年と比べても同じか少なくなった所が多かった。

真夏日（日最高気温が 30℃以上の日）の日数は、6 月は平年と同じか上回ったが、7 月と 8 月は平年と同じか下回り、夏の合計は平年を下回った所が多かった。また、昨年と比べても同じか少なくなった所が多かった。なお、今夏の猛暑日（日最高気温が 35℃以上の日）は無かった。

(3) 不照日数・降水日数・霧日数

不照日数は、6 月と 8 月は平年と同じか上回る所が多く、7 月は各地とも平年を上回った。夏の合計は全ての地点で平年を上回った。

降水日数は、6 月は平年と同じか上回る所が多く、7 月は全ての地点で平年を上回ったが、8 月は概ね平年と同じだった。夏の合計は、各地とも平年を上回った。

霧日数は、6 月と 7 月は平年と同じか下回った所が多かった。8 月は日本海側で平年と同じか下回った他は平年を上回った所が多かった。夏の合計は、平年と同じか下回った所が多かった。

第 4 表 6 月から 8 月 3 か月間の、夏日、真夏日、不照、降水、霧の各日数

地点名	夏日日数			真夏日日数			不照日数			降水日数			霧日数		
	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年	本年	平年差	昨年
稚内	1	-7	2	0	0	0	29	+11	22	32	+8	22	6	-6	6
北見枝幸	9	-8	15	0	-3	0	41	+17	30	34	+6	29	21	×	15
羽幌	11	-9	19	0	-2	0	20	+7	15	35	+8	22	3	×	7
雄武	8	-8	13	0	-3	0	37	+15	27	34	+6	27	23	×	14
留萌	9	-13	22	0	-3	1	15	+3	14	33	+7	23	7	×	4
旭川	41	-9	52	6	-4	8	15	+4	14	34	+6	22	0	-3	4
網走	10	-9	22	1	-3	2	19	+3	17	33	+6	25	10	-5	16
小樽	23	-6	28	1	-4	2	18	+7	9	35	+11	19	4	×	1
札幌	32	-8	41	4	-4	4	19	+9	8	32	+9	20	1	-1	0
岩見沢	33	-7	43	3	-4	2	21	+8	15	32	+6	23	7	×	7
帯広	32	-2	33	7	-3	10	34	+10	30	35	+9	29	19	-4	28
釧路	1	-4	3	0	0	0	32	+6	28	35	+8	28	38	-14	46
根室	5	-3	1	0	-1	0	37	+13	23	33	+7	30	57	-3	61
寿都	13	-6	17	0	-1	0	16	+4	14	33	+9	23	2	×	4
室蘭	11	-3	10	0	0	0	28	+5	26	33	+3	34	27	0	28
苫小牧	8	-3	10	0	0	0	33	+4	29	36	+5	31	21	×	29
浦河	1	-8	1	0	0	0	27	+7	26	36	+8	29	33	-5	40
江差	20	-7	29	0	-2	0	18	+3	16	36	+10	30	2	×	5
函館	28	-3	32	0	-3	0	25	+8	21	36	+11	24	9	+2	9
倶知安	27	-5	34	1	-3	1	15	+2	11	29	+4	24	9	×	17
紋別	11	-6	14	1	-2	3	28	+8	24	38	+9	27	18	×	10
広尾	11	-3	8	1	-2	0	37	+8	31	38	+8	29	48	×	47
北海道平均		-6.2			-2.1			+7.4			+7.5			-3.9	
日本海側		-7.7			-2.7			+5.8			+7.8			-3.3	
ホツ海側		-7.8			-2.8			+10.8			+6.8			-5.0	
太平洋側		-3.6			-1.1			+7.6			+7.4			-4.0	

注： 降水日数とは、日降水量が 1mm 以上の日数。

各地点の平年差は、平年値（小数第 1 位）を四捨五入した整数値と、本年との差。

下段の地域平均は、各地点の平年差（整数値）の地域別の平均。

×：平年値なし。

(4) 今夏の主な気象災害

第5表 今夏の主な気象災害

・6月23日 浸水害 山がけ崩れ害 海上波浪害	北海道の西海上にある低気圧が北東に進み、これよりのびる前線が北海道を通過した。 釧路、日高支庁では、床下浸水、道路の法面変状、停電、鉄道の運休、農業被害があった。また、後志支庁の沖合いでは漁船の転覆があった。
・6月26日 落雷害	上空に寒気を伴った気圧の谷の通過により、大気の状態が不安定となった。 空知支庁では、落雷により滝川市内で1520戸の停電があった。
・7月8日 山がけ崩れ害 陸上視程不良害 浸水害	低気圧が北海道の南を通過して大雨となった。 檜山支庁では、道路の土砂崩れ、航空機の欠航があった。また、空知支庁では美瑛市で床下浸水があった。
・7月10日 浸水害 山がけ崩れ害	発達した低気圧が北海道の南を通過して大雨となった。 渡島支庁では、鉄道の冠水による運休や遅延、落石による道路の通行規制があった。
・7月13日 山がけ崩れ害	低気圧が北海道付近を通過した。 胆振支庁では、道路の法面崩壊があった。
・7月15日 山がけ崩れ害 海上波浪害 浸水害、強雨害	低気圧が発達しながら北海道に近づき大雨となった。 日高、檜山支庁では、民家裏や道路の土砂崩れ、フェリーの欠航、鉄道の運休、農地冠水があった。
・7月19～20日 山がけ崩れ害 浸水害、強風害	低気圧が北海道付近を通過した。 空知、上川、日高、渡島支庁では、土砂崩れ、崖崩れ、道路の法面崩壊、床下浸水、農業被害、林業被害、お祭り用アーチの転倒があった。
・7月25～26日 山がけ崩れ害 浸水害	前線が北海道付近に停滞した。 上川、渡島支庁では、土砂崩れによる道路の通行止や鉄道の運休、農地の冠水があった。
・7月27日 山がけ崩れ害 強雨害	前線が北海道付近に停滞して大気の状態が不安定となった。 日高、十勝支庁では、道路の土砂崩れ、農業被害、水産業被害、林業被害があった。

6. その他

(1) 梅雨の状況

梅雨入りは、沖縄から九州南部地方にかけては平年より遅く、九州北部から東北地方にかけては平年より早かったが、四国地方では平年並だった。梅雨明けは、太平洋高気圧の日本列島付近への張り出しが弱かったため、多くの地方で梅雨明けが平年より遅くなり、中国、北陸、東北地方では梅雨明けが特定できなかった。

(2) 台風の発生状況

6～8月の台風の発生数は9個で平年を下回った(平年11.2個)。日本に接近した台風は3個(平年6.2個)で、このうち、台風第11号は北海道に接近して太平洋側を中心に雨を降らせた。なお、日本に上陸した台風はなかった。

月別の台風発生数は、3月まで0個(平年1.0個)、4月0個(平年0.8個)、5月2個(平年1.0個)、6月2個(平年1.7個)、7月2個(平年4.1個)、8月5個(平年5.5個)。